

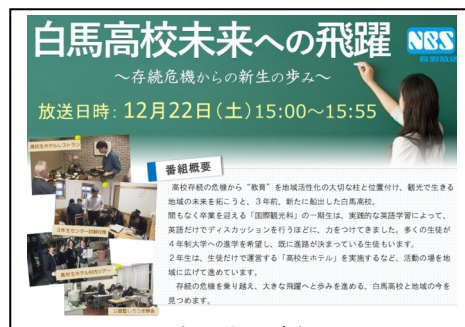
平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	白馬高校支援事業
事業主体 (連絡先)	白馬山麓事務組合 白馬高校支援係 0261-85-5585
事業区分	(3)教育文化の振興 (8)その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,494,800 円 (うち支援金 : 1,871,000 円)

事業内容

地域の高校存続に向けて白馬村・小谷村が実施している白馬高校支援事業。

平成30年度は白馬高校「国際観光科」1期生の卒業年度となることから、これまでの3年間を主なテーマとして番組作成を行う。番組の内容は1期生の進路選択や、支援事業の取り組み、そのほか本年度からの同校における新たな取組みや同校「普通科」を含めた高校全体の“今”を取り上げたものとし、多くの皆さんに3年間の取り組みを認知してもらう。



【番組告知フライヤー】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

魅力ある白馬高校を発信することで、入学者の増加が見込まれこととなった。

- ・平成31年度入学者数見込み
国際観光科 40名 (前期+後期)
普通科 40名 (前期+後期)
- ・白馬高校みらい教育サポーター
17社 → 18社へ増加

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

白馬高校支援事業が始まり3年が経過し、初の卒業生がそれぞれの進路へ歩み出した。支援事業の結果、一定の生徒数の確保がなされ、高校存続の目標を達成することができた。しかし、同時にこの3年間は試行錯誤の期間であったこともあり、しっかりとした総括を行い、今後の支援事業の在り方や方向を定める必要がある。

【目標・ねらい】

- ① 白馬高校支援事業の周知
- ② 新入学生定数の確保
- ③ 「みらい教育サポーター」の増
- ④

※自己評価【 C 】

【理由】
「定員の確保」という目標を達成することにより、当面の間は高校存続する見込みとなったが、将来的を見据えた支援事業の在り方を定めなければ、継続的な支援は困難である。
「みらい教育サポーター」の活用も充実したものではないため、検討が必要。